



# FSCだより

北里大学獣医学部 附属フィールドサイエンスセンター

第 51 号 2013.11.18

## FSCの設立趣旨

土地、植物、動物及びそれらを取り巻く環境を生命系として教育・研究を行うとともに、これらの研究成果を通して、広く地域社会の発展に寄与することを目的とする。

## 十和田農場から

### ヤギを使って除草

毎年この時期になると農場内にあるスラリータンクの周りの草が伸び放題になり、トラクターに草刈機を付けて草刈りをしています。今年はヤギに放牧させようと考えました。

放牧による採草と雑草の除草も一度にでき、正に一石二鳥と、7月1日に親ヤギ11頭を放牧したところ、ヤギの食欲は凄いもので伸び放題の草や低木は数日で食べつくされる勢いでした。

しかし、放牧して3日目ごろに数頭のヤギに異変が見られ反芻動物ではありえないような嘔吐が見られたため、渡辺農場長に診察をお願いしたところ、中毒症状が見られるとの診断結果が出されました。そこで、渡辺農場長と担当で放牧した現地を観察してみると、つつじの葉が食べ尽くされていました。

渡辺先生からの「つつじ中毒」との診断結果を受け、直ちに治療を施していただき、翌日にはヤギの体調も回復して、翌々日には何もなかったような顔をして、すっかり元気になっていました。

来年は、放牧地のつつじを移動するか、フェンスで囲うなどの対策を講じて、中毒にならないように放牧をしたいと思います。



## 八雲牧場から

### E学科実習

7月8～10日、10～12日の2回に分かれてE学科の学生実習が実施されました。

到着後すぐに牧場展望台まで散策し、帰りは草地の中を通り八雲牧場の牧草生産の要となっている白クローバとその根粒を実際に手に取り観察しました。また2日目は午前の班と午後の班に分かれ、八雲牧場の飼養管理技術において重要な作業を学ぶため、放牧牛の行動調査（放牧牛の観察）、牛の追い込み（電気牧柵の仕組み、牛の追い方）、堆肥のアンモニア濃度測定（生堆肥、処理中堆肥、処理済み堆肥のアンモニア濃度の比較）の3つの実習を1時間ずつ行いました。午後の最後には全員で、北里八雲牛と慣行牛の食べ比べと牛群の大移動を行いました。



### ひらめきときめきサイエンス

科学研究費の理解を広めるために行われた「ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～」が7月13日、20日に行われました。

13日は中学生6名、引率教諭2名、20日は小学生5名が参加しました。

プログラム名を「太陽とクローバが育てる北里八雲牛～畜産の輝ける未来～」と題して、寶示戸牧場長と小笠原助教、大学院生を中心に圃場や研究室を利用して、白クローバの根粒菌の実態顕微鏡を用いた観察、牛追い、採血の見学および血液の顕微鏡による観察、筋肉組織の観察、北里八雲牛の試食などを行いました。小学生には少々難しい内容もありましたが、とても楽しそうに過ごしていました。この中から将来の研究者が生まれることを期待しています。



### 東都生協親子体験学習

7月24日～25日に、東都生協の親子体験を受け入れました。

東京から5組の親子が来場し、精子・卵の観察、北里八雲牛を使ったピザづくり、放

牧牛の観察などを体験しました。見学の途中、雨が降りましたが、広い場内をみなさん元気に歩いてくれました。

夜は北里八雲牛のBBQを行って、1日を通して牧場の取り組みと北里八雲牛のおいしさを味わってもらいました。



### 東都生協配達車同上体験および勉強会

7月25日に小野係長が東都生協世田谷センターを訪問し、生協配達車への同乗体験と配送職員への北里八雲牛勉強会での講師を行いました。

9:00 から 15:00 まで配送業務の手伝いを行いながら組合員への北里八雲牛の宣伝を行い、16:00 から 2部構成の北里八雲牛勉強会を行いました。

組合員の皆様には安全で安心な牛肉生産の取り組みについて大変興味を持っていただき、また配送担当者の方々からは販促する際の説明のためにとたくさんの質問をいただきました。

生産者と組合員そしてそれをつなぐ配送担当者との理解を深める良い機会となりました。

### Z学科学生実習

7月31～8月4日、8月5～9日、9月2～6日、9～13日の4回に分かれてZ科学生実習が行われました。

内容はスタディウォーク、頭絡の作成、除角・去勢、Brix値の測定、バッタ採取、電牧柵の作成・牛の追い込み、植生調査、食肉官能試験と多岐にわたって行われ、最終日には実習内容に即した試験を行いました。暑い中の実習でしたが、無事終了することが出来ました。



(編集担当：畔柳 正)